

越境と悪魔化

—憎悪の物語定型の伝播としての Twitter 上のトランス排除運動の拡大—

2023 年 9 月 2 日 カルチュラル・スタディーズ学会 田村貴紀

発表概要

この発表は、Twitter 上に拡散したトランス排除言論は、憎悪の語彙セットに基づく、憎悪の物語定型の伝播であると主張する。レイシズムの先行研究を参照しながら、この憎悪の物語定型の発生と伝播の状況を計量テキスト分析を使って示す。

1. 論題提唱

「憎悪の物語」とは、つまりヘイトスピーチであり、本発表は、憎悪の社会運動としての Twitter 上のトランス排除運動を論ずるものである。

2018 年 12 月以降、それが起源ではないものの、トランスジェンダー女性排除論が Twitter 上に台頭した。それは主にトランス女性を「トイレ、女湯などで性暴力を行う可能性のある主体」(1)と主張する。

Twitter 上の排除論は、現実の政党政治とも呼応するようになった。2023 年 5 月 10 日、自民党片山さつき議員は LGBT 理解増進法の『性自認』を理由とする差別は許されない」などの文言に対して、「女性や、性転換で女性になった人にとって、無防備になるトイレは襲われるリスクがある。」などと夕刊フジにコメントした。

極右の反「LGBT」論は強固だが、これまであまり説得力がなかった。櫻井よしこは、「日本は同性愛や LGBT に対する理解は他国よりはる。…日本の国柄に沿った解決策考えていくべき」(2)などと主張するが何を言っているのかよくわからない。説得力がなかった。しかし、「女性を守れ」となればインパクトがある。トランス排除言論は極右政治の武器となった。

本発表は、次の仮説を持つ。

上記のトランス排除論は、「誤った二分法」を使った議題設定によって「女子トイレと女湯」を境界線として設定し、それを越境したとして「トランス女性」を悪魔化する論法である。そしてこれは一定の「憎悪の語彙と物語定型」によって構成されている。

片山さつきは、上記のコメントに続けて、「安全確保は、いわば『生存権』だ。一方、生物学的な男性で女性を自認する人が、女性トイレを使いたいというのは『自由権』にあたる。これは、個人の尊厳の基準だ。『自由権』よりも、生命や財産に直結するリスクを抱えた弱者の『生存権』が優先されるのは当然だろう」と自説を展開している。

このようにトランスジェンダー憎悪の物語は、解釈共同体の中で共有され、差別者はその「憎悪の語彙と物語定型」を習得することによって、自分が発明したかのように自らの差別物語を生成する。この循環過程を伝播と呼ぶ。

本発表は、Twitter 上でのこの憎悪の物語定型の伝播の過程を、計量テキスト分析によって検証する。

2. 物語とはなにか

物語の定義

物語についてのクラシックな定義は次のようなものである。

第1に「物語は時間軸にそった出来事の選択的構造化である。浅野智彦(3)」すべての出来事が選ばれることはなく、また不可能である。また物語は、過去から現在に向けて整合的に語られる。

そして「物語とは、出来事や人間の行動を全体として組織化する意味構造 Polkinghorn(4)」であり

多様な出来事や経験を、選択的に構造化することで組織し、意味あるものにする。

さらに、「物語は、〈論理－科学的様式〉と〈物語の様式〉として人間の2つの認知様式の一つブルーナー」である。物語アプローチをとる心理学者のブルーナー(5)は、人間の認知作用や思考様式として、〈論理－科学的様式〉と〈物語の様式〉という二つのものがあるという。両者は経験を秩序だて、現実を構築する異なる仕方であり、お互いに相補的であるが、片方を片方に還元することはできないと述べている。論理－科学的様式は、それは事実かどうかを突き止めようとする。また、表層的な現象の背後には体系的な真理があって、複雑な現象からその真理を抽出することを目的とする。一方、物語アプローチは、〈意味連関〉や〈経験の組織化〉に迫ろうとする。

社会運動と物語

社会運動と物語については、次のような研究がある。社会運動と参加者の関係について Davis(6)は述べる。

物語は二種類の集団を含む。それは語り手と聞き手である。そしてうまく語られた物語は、両者を関係づける。この点で物語は意味を共有することに力を持つ。従って集団の物語を研究することは、社会運動の出現、資源の動員、ひとつひとつへの説得を解明することに役立つ。

対面で共有される共同創作的な社会運動の物語は、その解釈共同体のなかで共有され、再生産され出来事と経験を構造化する。出来事と経験を意味あるものとして語る事は簡単ではない(7)¹が、共同の物語の中で自分の物語を語るようになる。

とはいえ、対面で語られる物語の全体を概観することは難しい。しかし、ネット上の社会運動では、物語は可視化され分析の対象となりうる。Affective Publicsという本の中で、Zizi Papacharissi は概要次のように言う。

ネット上で人々をつなぐものは、ネットワークではなく物語である。その物語によって情動が運ばれる。ま

¹ エピファニー的な体験を、自分の物語として紡ぐ事ができないことがある。アーサー・フランクは、このような状態の語りを「混沌の語り」と呼ぶ。

物語は、傷口の縁をなぞり、ただその周囲を語ってまわることしかできない。言葉は痛みの生々しさをほのめかすものの、傷はまさに身体のものとしてあり、その屈辱と不安と喪失感を言葉は決してとらえることができない。(p.140)

た、ネット上で物語は可視化される。Papacharissi(8)

前述の Davis も、こう言っている。

参加は、同意以上の事柄で、参加者が参加しリスクを取り行動するためには、「感動」することが必要なのである。参加する、巻き込まれることは、論理的で目的遂行的なだけでなく、イメージーションや直感、そして感情が絡んだことである。

Francesca Polleta はその典型例の一つとして米国公民権運動の象徴と称賛される Rosa Parks と Montgomery Bus Boycott を挙げている(6)。人種によって座る席が決められていた 1955 年、アフリカン・アメリカンの女性、お針子(seamstress 原文ママ)の Parks は白人に席を譲らなかったため逮捕されたという有名な逸話である²。モンゴメリーのアフリカン・アメリカンは、Parks が席を立つのを断る前から組織されていたし、彼女は単にお針子であっただけでなく、長い間全米有色人種地位向上協議会(NAACP)のスタッフであった。また、バスの席を譲らなかったのは彼女が初めてではなかった。それにも関わらず、その行動は自然発生的で背景がないものとして物語られる。「Rosa が逮捕されたと聞くと、モンゴメリーの若き牧師 Martin Luther King Jr は、モンゴメリーのすべてのアフリカン・アメリカンにバス・ボイコット運動を呼びかけた。」と物語は続くのである。出来事は選択され、過去から現在に向けて整合的に語られる。

ただし、物語によって運ばれる感情は、不正に対する怒りもあれば、被抑圧者に対する共感であるかもしれないが、歴史修正主義や在日特権論、そしてトランスジェンダーに対する憎悪である場合もある。

情報社会論とヘイトスピーチ

ネット上展開されるトランス排除の物語と、それによって運ばれる憎悪を分析することが本発表の主題である。そこで、その背景であるネット・コミュニケーションの環境について、情報社会論とヘイトスピーチに関して触れておく。

1990 年代末から 2000 年代初頭にかけて、日本でも情報公共圏論が台頭した。ネット上で社会的な地位や属性に関係なく、自由に理性的な議論を交わすことによって、ハバーマスのいう公共圏が成立するのではないかと考えた(9-11)。

今にしてみると信じがたいことだが、可能性を感じた理由の一つは、当時日本の研究の事例の多くが、パソコン通信から採取されたものだったからではないかと推測する。パソコン通信は、ある運営会社に個人情報登録し、料金を支払って参加する。議論する空間であるフォーラムなどの場所では、司会者が主題と議論を整理する。参加するには、高額だった PC と接続のための高い電話料金を払う必要があり、しかもまだ難解と言える UI を使いこなせるコンピューター・リテラシーが必要だった。それらの資源の必要性によって参加者はあらかじめ選別されており、匿名ではあるが、個人情報は運営会社によって把握されていることも参加者にはわかっていた。つまりそれは、いわば仮面舞踏会のようなものだった。ネット上のコミュニケーションは、その技術的特性によって性格付けられるだけでなく、コミュニケーション空間の設計、参加する人間の属性や文化、などによって複合的に決定される(12, 13)。

しかしその後、主題や議論を整理する司会(管理者)の役割は後退していき、「言論の自由市場思想」を基にネットコミュニティが設計されていく。

管理者がおらず、言論の自由市場主義のネットでは、価値相対主義がより拡張した。相互に言論が自由であり、かつ

² Britannica <https://www.britannica.com/event/Montgomery-bus-boycott>

価値相対主義であるならば、議論で物事を決める事は困難である。北田暁大は、前提が異なるもの同士が突然出会うネットでは議論は原理的に成立せず、前提のすり合わせだけで終わってしまう「神々の闘争」が生じると言っている(14)。価値相対主義はファシズムを許容し、議論で物事が決まらなければ、力が物事を決めることになる(15)。イタリアのファシスト、ムッソリーニの言を引用しよう。

もし、固定観念や、客観的で不滅の真理などというものの運び手を自称する人々を軽蔑することが相対主義の意味するところであるならば、ファシストの態度と活動以上に相対主義的なものはないのである。

「正義の反対語はもう一つの正義」という、価値相対主義的な通俗倫理が支配する世界が我々のネット空間である。そこで、討議倫理に基づく理性的な議論が力を失えば、論理科学的認知様式に変わって、物語的認知様式が、議論に代わって、物語とそれによって伝わる感情が力を持つのである。

誤解のないように付言しておこう。言論の自由市場主義と価値相対主義は、一見して悪意に満ちたものとは限らない。一例をあげよう、下記は石上卯乃エッセイ掲載に関する WAN の謝罪文の一節である³。

WAN サイトの記事は、各コーナーの担当が記事アップの可否を決めるという、編集分業体制をとっています。これは、多くの記事が集まるサイトの運営をボランティアで進めるための方策ですが、以下のようなポリシーは共有されてきました。

- 1)開かれた公論の場の提供を目指している。
- 2)掲載記事に WAN が賛同しているわけではなく、有用と思われる論点について、多様な見解を掲載する。(そもそも WAN は一致した見解による運営はしていない。)

これが、言論の自由市場主義と価値相対主義の典型例の一つである。一読して善意に満ちた姿勢である。多くの報道機関もおそらく同じような方針を持っているのではないかと感じる。つまり、「善良な中立者」の姿勢である。この「善良な中立者」が、善意が故にときに悪の手助けになってしまうこと、これが現代の課題である。なぜならば、言論の自由もまた再分配される社会的資源の一つで、パソコン通信の事例のように、社会的資源がある程度均等に再分配されたもの同士の間でしか、言論の自由市場は機能しないからである。

憎悪物語の類型

憎悪の物語には類型がある。二つの憎悪の物語を比較することで、その特徴を見る。

先述のように、LGBT 理解増進法に関して片山さつき議員は夕刊フジに次のようにコメントした⁴。

「女性や、性転換で女性になった人にとって、無防備になるトイレは襲われるリスクがある。」

³ <https://wan.or.jp/article/show/9075>

⁴ 「片山さつき氏LGBT法案切り」夕刊フジ5月10日(2023)

2021年の「武蔵野市住民投票条例」審議の際、参政権ではなく、単なる住民投票参加券に過ぎないのに佐藤正久議員は、このように Tweet した。

「これはダメ。中国からすれば格好的。やろうと思えば、15万人の武蔵野市の過半数の8万人の中国人を日本国内から転居させる事も可能。行政や議会も選挙で牛耳られる」

佐藤議員の算数の間違いはさておき、いずれも針小棒大というよりは、火のないところに煙を立てる2つの憎悪物語には共通点がある。以下、箇条書きで示す。

- 前記2例とも、未来の過去から未来の現在へ向けて、出来事の選択的構造化が行われている物語であり、演繹的推論でも帰納的観察でもない。
- 叙述においては恐怖、発話内行為（16）としては憎悪表明、発話媒介行為としては差別扇動である。つまりヘイトスピーチである。
- 誤った二分法で構成されおり、第三の視点が欠落している。「怖いことが起きたら怖い」「困ったことが起きたら困る」という同義反復で、議論しても一つの答えしか出ない構造である。
- 境界線を引いて、越境したとして悪魔化する。

本発表は、冒頭で述べてように、Twitter 上のトランス排除言論が、この越境と悪魔化の憎悪の物語の伝播であると捉え、計量テキスト分析によって検証する。

3. 方法論

計量テキスト分析

計量テキスト分析は、質的研究法の一つである。Uwe,Flick は、日本でも広く読まれている *An introduction to qualitative research*(17)の中で、質的研究法の手法を 10 あげ、その一つとして、コンピューターによるコーディング(切片化)をあげている。今回使用した計量テキスト分析ツールである KH Coder も名前の通り、コーディングを目的として開発された。

計量テキスト分析を採用する理由は 4 つある。

1 つは、テキストの解釈過程を可能な限り明示することである。質的研究の対象となるテキストは、多くの場合その研究者以外に読まれることがない。読解した研究者によって解釈を示されても、それが妥当かどうか検証する術がない。読者は、ブラックボックスの中から突然出てくる答えを読むことになる。

2 つ目は、テキストの比較である。数量化することによって、瞬時に複数の膨大な量のテキストを比較することができる。

3 番目は、トランス排除の物語が、理解しがたい物語だからである。物語的枠組みの中で閉ざされた思考は、その外部から理解することが難しい。その物語の理解が難しいのであれば、後にリクールを参照して述べるような理由もあり、物語が始まる前の単語に戻って理解を試みることも、一つの方法である。

4 番目には、調査倫理上の問題である。扱う対象は、Twitter 上に公開された内容で、法的には公開された著作物として直接的引用に何ら問題はない。しかし、個人が何を言ったのかが問題ではなく、複数のテキストで構成される議論

を分析することが目的である場合、個人の投稿を焦点化することは、場合によって適切ではない。

同時に、もちろん大きな問題もある、人は通常文章を構文に沿ってシンタグマティックに読むのだが、それを単語に分解して、いわばパラダイグマティックに読む事は、もはや読むとは言えず、別種の発見をすることだと理解する必要がある。そしてそれは容易ではない。

単語間の関係

今回行う計量テキスト分析は、文章を単語(形態素⁵)に分解(形態素解析)して、単語の出現頻度や、共起関係を調べ、これによって、単語が数列に変換されるので、次に単語ごとに合計して頻度を出す(表 1)。記事ごとに横に見れば共起がわかる。例えば、四角で囲った投稿には共起している単語がいくつか見つかる。異なる単語が同時に出現する割合を、今回の分析では、ジャカード係数を用いて計算し、数値化して、下表のようなマトリックスを作る(表 2)。ジャカード係数の計算方法は下記である。

$$J(A, B) = \frac{|A \cap B|}{|A \cup B|}$$

つまり、「集合 A,B の積集合÷A,B の和集合」である。集合 A の要素数が 180、B の要素数が 40、A,B の積集合が 20 とすると、ジャカード係数は、 $20 \div (180 + 40 - 20) = 20 \div 200 = 0.1$ となる。ジャカード係数は 0-1 の間の値をとる。

そして、係数が高いものを「距離が近い」、低いものを「距離が遠い」と置き換えて視覚化し、言葉の地図(多次元尺度構成法図)を作る(図 1)。ジャカード距離として計算するときは、1からジャカード係数を引く。

⁵ 形態素は、意味を有する最小の言語単位。たとえば「女性専用スペース」は「女性」「専用」と「スペース」に分割されるため、複合語として指定する。動詞は語幹に還元される。

表 1 単語の頻度と共起の概念的説明

投稿	トランス女性	女子トイレ	性犯罪	女性スペース	女性	男性	トランス	トイレ
Tweet0001	1	0	0	0	0	0	0	0
Tweet0002	1	0	1	0	1	0	0	0
Tweet0003	2	0	0	0	4	1	0	0
Tweet0004	1	0	0	1	1	0	0	0
Tweet0005	2	2	0	0	2	2	0	1
Tweet0006	1	0	2	0	0	3	0	0
Tweet0007	1	1	0	0	1	0	0	0
Tweet0008	2	2	2	0	1	0	0	0
Tweet0009	2	0	3	2	0	0	0	0
Tweet0010	3	0	1	1	1	0	0	0

表 2 ジャッカド係数のマトリックスの見本

	トランス女性	女子トイレ	性犯罪	女性スペース	女性	男性	トランス	トイレ
トランス女性	1	0.07	0.056	0.061	0.437	0.227	0.078	0.074
女子トイレ		1	0.054	0.024	0.061	0.061	0.031	0.085
性犯罪			1	0.055	0.053	0.062	0.046	0.044
女性スペース				1	0.064	0.064	0.037	0.025
女性					1	0.252	0.077	0.062
男性						1	0.066	0.058
トランス							1	0.037
トイレ								1

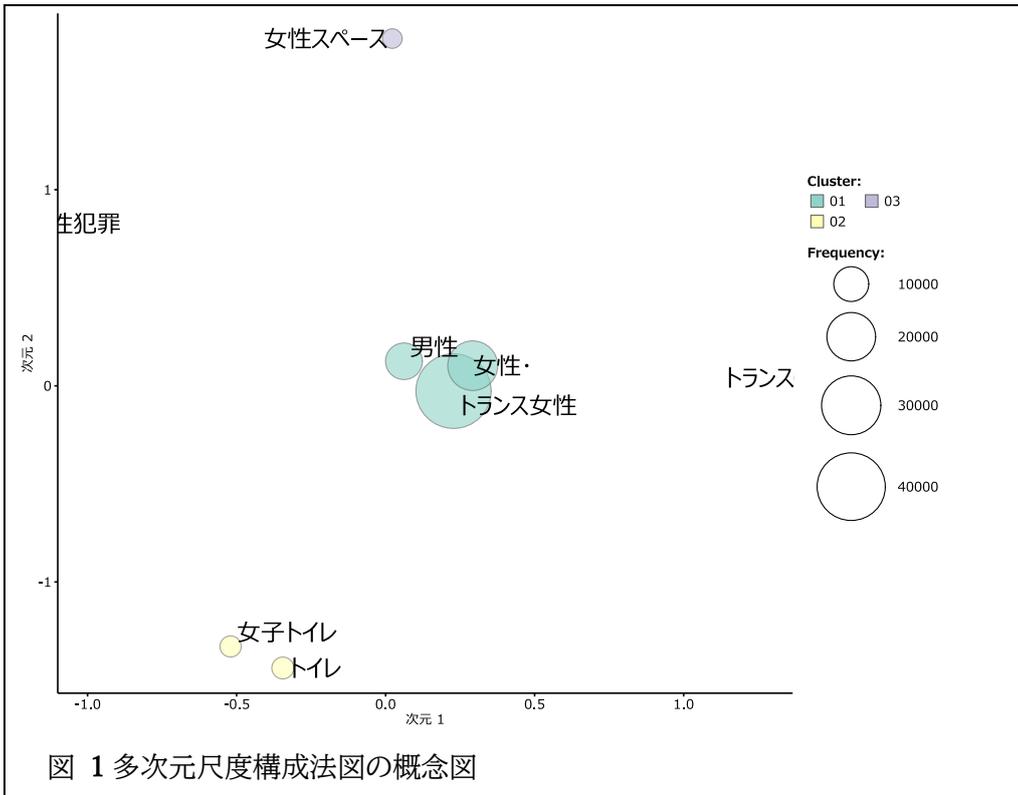


図 1 多次元尺度構成法図の概念図

分析方法

データの概要

データの概要は以下の通りである(表 3)。2018 年 7 月 1 日から、2023 年 6 月 30 日の間の「トランス女性」を含む Twitter 投稿を検索して対象とした。「トランス女性」という単語を検索語に選んだのは、先行研究(18-21)と被害の実態(22)による。

更に、ケーススタディーを行うため、トランス排除発言をしている 5 つのアカウントの 2018 年 7 月 1 日から、2023 年 6 月 30 日の間の Twitter 投稿をダウンロードした。

収集に Google Chrome の拡張機能である「ついすぽ -Tweet Export-」⁶を使用して Twitter 社の公式検索機能を使って検索しダウンロードした。ダウンロードできる範囲は、Twitter 社の許容したものになった。したがって、全数調査でも標本調査でもない。

本調査の「トランス女性」を含む Twitter 投稿に於いて各年前半とは1月 1 日から 6 月 30 日のことであり、各年後半とは、7 月 1 日から 12 月 31 日のことである。実施期間は 2023 年 5 月から 6 月である。

また、参考資料を三種類使用した。まず、予備調査として 2019 年 2 月に収集した「トランス女性」に関するデータである。予備調査の収集期間は、2018 年 3 月から 11 月まで各月の 1 月 1 日から 10 日までの 10 日間の期間と 2019 年は、1 月 1 日から 10 日までの 10 日間。2018 年 12 月に関しては加えて 20 日から 30 日までの 10 日間も追加した。

加えて、①LGBT 理解増進法 (2023 年 2 月 15 日～5 月 15 日)、②2021 年の武蔵野市住民投票条例の際の「“武蔵野市住民投票条例に反対します”ハッシュタグ」、及び③入管法 (2023 年 2 月 15 日～5 月 31 日)のデータである。

⁶ <https://chrome.google.com/webstore/detail/%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%99%E3%81%BD-tweet-export/imjojcgfeinokaclmifakpphkfeiddg?hl=ja>

表 3 データ概要

「トランス女性」を含むTwitter投稿												
	2018年7-11	2018年12	2019年前半	2019年後半	2020年前半	2020年後半	2021年前半	2021年後半	2022年前半	2022年後半	2023年前半	Tweet数合計
Tweet数	1,200	1,919	19,686	7,376	11,385	20,294	25,132	30,065	29,352	37,048	49,069	232,526
重複のないアカウント数	354	437	2,889	1,600	2,587	4,131	5,294	5,216	7,050	7,384	14,243	
個人アカウント分析												
	case1	case2	case3	case4	case5							
Tweet数	7,229	32,318	15,152	20,859	4,508							80,066
重複のないアカウント数	1	1	1	1	1							
参考資料												
	予備調査	予備調査										
	トランス女性2018年(3-11月)	トランス女性2018年12月、2019年1月	LGBT理解増進法2023	武蔵野市住民投票条例2021	入管法2023							
Tweet数	1,728	8360	33,718	18,788	31,382							93,976
重複のないアカウント数			13,342	5,252	12,803							
											総計	406,568

これらのデータを用いて次のような4種類の分析を行った。

1. Twitter を分析して、多次元尺度構成法による作図をした。
2. 次に、各期間の憎悪の物語の発生比率を見るために、レイシズムについての先行研究を参考にコーディング(記事分類)を行いグラフ化した。コーディングという手法については、後述する。
3. 主題である伝播とは同じアカウントが物語を反復するだけではなく、新規参入アカウントが物語を継承することを意味する。そこで、三番目に、新規参入状況を見るために、今回収集した「トランス女性」を含むデータのうち、2020年以降各期間に新しく誕生した Twitter アカウントのツイート内容を分析し、既存アカウントとの比較をした。例えば2020年前半の場合、2020年1月1日から6月30日までの間に作成されたアカウントを新規参入アカウントと考えた。2020年後半であれば7月1日から12月31日の間である。以降同様である。原則的にこの期間に作成されたアカウントが、それ以前の期間に発言することは不可能なので、新規参入アカウントと想定した。
4. 新規参入アカウントは、既存のアカウントのデータと切り分けて別ファイルとして分析した。したがって今後のコーディングによる記事分類の際の各コードの比率%は、新規参入アカウントと既存のアカウントでは、分母が異なる。

5. 最後に、ケーススタディーを行った。任意の方法で選んだ、トランス排除発言をしている個人のアカウントの投稿した内容を、時系列を追って分析した。

4. 分析結果

各期間の単語構成

多次元尺度構成法による作図を行い、各期間の単語構成を見た。事前に表記ゆれの統一を行った。つまり、同様な意味を持つ単語を、一つの単語に代表させた(表 4)。

表 4 表記ゆれの統一

代表する語	代表される語
トランス女性	トランスジェンダー女性 トランス女子 トランス女
女子トイレ	女性用トイレ 女性トイレ 女性専用トイレ
女湯	女性風呂 女風呂 女子風呂 女性浴場
女性専用スペース	女性専用女 性専用車両 女性用スペース 女子更衣室 女子スペース
身体的女性	生得的な女性
LGBT	LGBTQ
トランス差別	トランス女性差別 トランスハイト

多次元尺度構成法による作図

紙幅の節約の為、図の一部をこの資料には掲載し、全体は割愛しますが、発表者のリサーチマップの「資料公開」にパワーポイント資料を含め、全資料を公開しています。

<https://researchmap.jp/tamuratak/paper>

最初の図は、2018年7月から、11月までの投稿を分析したものである。2018年12月から、トランス排除言論が高揚したという印象があったが、この段階で、女子トイレ、女湯、性自認、女装、性自認、性犯罪などトランス排除言論の指標と言える単語が出現している。この段階では、出現単語種類も少なく分散しているが、2018年12月になると、凝集性が高まる。収集した時期の異なる予備調査でも同様の結果が観察できる。ただ、予備調査の2018年2月12月では、女性専用スペースが出現している。

2019年になると、単語群は引き続き凝集性を保ったまま、出現する単語数も増えてくる。「定義」という、しばしばトランスジェンダーに対して問われる単語が出現する。単語間の引力は2020年になっても引き続いており同様の単語が出現している。これ以降2021年、2022年とほぼ同様な状況が続いている。この状況は、延々と2033年に至るまで5年にわたって繰り返されてきた。2023年はLGBT理解増進法が審議され可決された年であり、その影響もあって出現単語数も増え、全単語中で占める比率も増えている。ここで参考のためにLGBT理解増進法のデータを見ると、小規模な形で同様な配置が発見できる。6月21日、同じ憎悪の物語を基盤に「女性を守る議員連盟」が誕生し、Twitterのヘイトスピーチと政党政治とが呼応した状態となった。

物語にとって単語とはなにか？

それでは、ここで発見される単語とはなにか？また、なぜ単語に注目するのか？現れた単語群自体には時間が存在しないので物語そのものではないが、単語は、物語が始まる前から書き手と読み手の間に共有されていて、物語が読み終わられたあと、再び新しく共有されるものだからである。そして物語はこの共有なしには読み手に伝わらないからである。テキストマイニングはこの文章解釈の前提部分を探る。

計量テキスト分析を社会学に導入した秋庭・川端(23)⁷は、リクール(24)の「3重のミメシスの循環」を応用して、体験談における単語の意味を説明した。そしてテキストマイニングで発見される重要な単語群は、3重のミメシスにおけるミメシス I (先形象化 *préfiguration*) であると位置づけた。

ライフストーリーの研究の中で、物語にはヴァージョンがあることが知られている(25)。潜在的「ヴァージョン」のすべてではないにせよ、そのかなりの部分が尽くされなければならない。

「物語に足がかりを提供してくれる」素材がミメシス I である。これらに立脚し物語が定位される。彼らは、新宗教教団信者の信仰物語を分析する中で、計量テキスト分析によって発見される語群が、物語に足がかりを提供してくれ、ヴァージョンを生み出す素材としてのミメシス I だと考えた。

物語は、ミメシス I (先形象化) によって作者と読者に共有され、ミメシス 2 (統合形象化) をへて構築され、構築された物語は、ミメシス 3 (再形象化) をへて読者によって解釈された世界に帰っていく。そしてそれが、次のミメシス I につながっていく。先行する物語によって、次の物語が作られる。

これは示唆に満ちた解釈であるが、書籍一冊を持って説明する必要があり、単に「出現した単語はミメシス I である」と言ってしまうと、読者がミメシスを静的なものとして捉える可能性がある。また、ミメシスの循環が、りんごを籠籠から籠へ移し変えるような物理的なイメージで伝わってしまう可能性があるため、ここでは簡単に物語のたまごのようなもの、材料の 1 つとして例えておく。

「トランス女性」の定義を問うこと

主題と異なるが、「定義」という単語を補助線として利用するために言及する。ここでの言葉の出現は、頻度と共起の関係によるので、対象データの Twitter 投稿全体の中に含まれていても出現される場合とされない場合がある。結論を先取りすると、上述の「定義」は、一貫して 2018 年から 2023 年まで、平均 2.50% 含まれている。人間について定義を求める事は、すべて暴力であり、しばしばその存在を否定することである。アイヌ民族否定論(26)においても、部落差別においても、トランスジェンダー差別(27)においてもそうである。人間は定義より大きく、属性とは定義であるので、ある人間を一つの定義で覆い尽くそうとすることを差別という。

しかし、「定義」は別の知見ももたらす。皮肉なことに、「トランス女性」の定義は、それを問うものによってすでになされている。これらの多次元尺度構成法図がそれである。正確には、「トランス女性」の「定義」の「定義前定義」、すなわち、ミメシス I である。「トランス女性」とはこうだ、と語る憎悪の物語の前提になるものだ。

そして、これほど長い間、この単語群の配置定形が継続しているのは、単に同じ物語が反復されているわけではなく、先行する憎悪の物語を解釈したものが、その単語群を使って、新たな憎悪の物語を変形生成させているのである。つまり、ミメシス 3 としての語彙であり、その循環とそれに基づく憎悪の物語の増殖が、憎悪の物語の伝播である。その循環と伝播の様子を、コーディング分析で見出していく。

⁷ pp. 268–271

コーディング分析

KH Coder を使ったコーディングは、グラウンデッド・セオリー・アプローチのコーディングを単語を指標として行うものである(28)。ここで単語で文脈が分かるのかという疑問が生じるであろう。例えば、「きつね」といってもイヌ科の動物のことなのか、うどんの種類なのかかわからない。しかし、「もり、かけ、きつね、天ぷら」と並べば、うどんのことである。

「女湯」「女子トイレ」「自認」「性犯罪」などが、5年にわたって、凝集して繰り返しでてくるとなれば、それは、もはや単なる単語ではなくて「トランス排除の憎悪の物語を構成する語彙」である。すなわち「差別の語彙」「憎悪の語彙」である。

コーディング・ルールを作る

先行するレイシズム研究を参考にしてコーディング・ルール(記事分類基準)を作成した。表記ゆれの統一を開放して、コーディング・ルールを適応した。

表 5 が先行研究から抽出した差別の語彙セット一覧表と、それを参照して作ったトランス排除のコーディング・ルールである。これらの言葉を使った対抗言論もありうることから、正確には内容の確実な反映ではなく、「議題」である。しかし、対抗言論の量はヘイトスピーチに比例すると仮定して、議題を表す指標の増減を、トランス排除言論の指標として採用している。

越境・悪魔化コードと、現代的レイシズム・古典レイシズムコードについて

表頭のコード名は、「越境」と「悪魔化」となっているが、これは、高史明が、Twitter 上のコリアンに対するヘイトスピーチを分析して記事分類した際に、「現代的レイシズム」と「古典レイシズム」と命名したものである(29)。この研究はすでに高く評価され、前後の研究をまとめた書籍は 2016 年日本社会心理学会出版賞を受賞しており、すでに定説になっているにも関わらず、改変するのは次の理由からである。長大な説明が必要であるが、論じ尽くすと主題から離れるため短く3点をあげる。

高の、「現代的レイシズム」と「古典レイシズム」の分類は、米国の社会心理学者 McConahay の研究によるものである(30)。黒人は劣っているという信念に基づく公然とした偏見を古典レイシズムと命名し、

しかし、ナチス政権による人種差別政策が人種偏見の害悪を知らしめたこと、また 1960 年前後の公民権運動を通して人種間の平等が訴えられたことにより、公然としたレイシズムは説得力を欠いたものになっていった。代わって姿を現した偏見は、McConahay によって現代的レイシズム(Modern Racism)と名づけられた。現代的レイシズムの持ち主は往々にして、人種間の平等の必要性自体は認めている。しかし、(1)偏見・差別はすでに存在しておらず、(2)現に存在する経済的格差は不平等によるものではなく黒人の努力の欠如によるものであり、(3)黒人は政府による優遇を過剰に求め、(4)不当な経済的恩恵を受けている、と考えているのである。現代的レイシズムは古典的レイシズムよりも微妙な形の偏見だが、それにもかかわらず差別的行動に結びついていることが示されている。(下線発表者)

問題にするのは、下線部分である。これを便宜上「現代的レイシズムの平等テーゼ」と呼ぶ。次に上げる3つの理由により、この現代的レイシズムの平等テーゼは日本では成立しないと考える。

まず、歴史認識である。高(30)は、70年代から80年代にかけて、日立就職裁判などを筆頭に、地方公務員への採用など、在日コリアンの権利の伸長がみられたから、平等テーゼが成り立つという。しかし、人種差別禁止法は一貫して制定されず、歴史修正主義が国家権力の中心を覆っている日本で、この主張は共有し得ない。

第2に、「現代的レイシズム」と「古典レイシズム」に関して2008年に行った、質問紙調査の確認的因子分析の結果である(31)。そこで、高自身が、

ただし、現代的レイシズム尺度について、項目1“在日朝鮮人に対する差別は、もはや大した問題ではない”および項目2“在日朝鮮人が現状を不満に思うのはもっともだ”の因子負荷量は比較的小さく、負荷量の大きかった項目はいずれも在日コリアンの要求や地位を過剰なものとするものであったことを考えると、在日コリアンに対する現代的レイシズムにおいては黒人に対するもの場合に比べて、差別が既に存在しないという認知の比重は小さく、差別が現存すること自体は強くは否認しないながらも、在日コリアンの権利への要求は過剰なものとして退けるといえるものであるのかもしれない。(下線発表者)

項目1と項目2が、平等テーゼに相当する質問項目である。現実には差別がなくなっていないのであるから、差別が既に存在しないという認知の比重が小さいのは当然である。この社会の多くの人が、在日コリアンは差別されて生きていくのが当たり前で、基本的人権など口にしようものなら、「平等の名の下の過剰な権利の要求」であり「政府やマスコミは過度に配慮している」と攻撃される。これは、日本の実情をよく表していると思う。行動保守の台頭を待つまでもなく、1985年に指紋押捺を拒否した李相鎬に届いた、彼を非難する山ほどの日本人からの手紙を見ればわかる(32, 33)。「法を守れないならば、朝鮮に帰れ」の大合唱である。つまりここで発見された差別に関する社会心理は価値あるものだが、McConahayの現代的レイシズム尺度と呼ぶ必要は無いのではないか。高は、それとは違う差別の社会心理を、日本で発見したのではないだろうか。これも、重要な功績である。

第3は、高の大学生に対する質問紙調査と、Twitter分析の乖離である。高は、2012年から2013年にかけて、“在日 or 韓国人 or 朝鮮人 or チョン”の検索語でTwitterデータを収集した。次節を先取りするが、このデータの中で、「特権、年金、生活保護、凶悪犯罪、レイプ、火病」などの単語を使ってツイートする行為は、一般的な差別の社会心理を反映しているというよりも、差別を目的とするツイートとそれに対する対抗言論という政治的な主題として捉えた方が良いのではないだろうか？

もともとMcConahayの現代的レイシズム尺度に対しては、「人種的偏見と保守的イデオロギーを混同している」という批判があった(34)。例えば、「黒人は自分たちにふさわしい以上の経済的利益を得てきた」という項目に賛成することは、アファーマティブ・アクションが、公平性を損なうと考えていることなのか、それともマイノリティ・グループに対する敵意を示しているのかわからない、というものである。

社会的状況を考慮すれば、2013年に上記のようなツイートをする事は、後者を意味する行動ではないか？そしてこれまでの考察から、平等テーゼは成り立たないので、むしろ現代的レイシズムとは違う命名をした方が適切ではないかと考えた。

そこで、発表者のレイシズムに関するTwitter投稿読解の経験と、高の抽出した単語群、そして「武蔵野住民投票条例」や「入管法」など他のレイシズムに関するツイート群と比較してみると、これはむしろ「越境と悪魔化」と分類したほうが良いと考えた。未だ感覚的で、荒削りな分類ではあるが有効であると考えた。

コーディングに参照した先行研究

コーディングに参照した先行研究や、独自研究は次のとおりである。

まず、先述の高史明のコードである。そして、曹慶鎬は、Yahoo!ニュースの計量テキスト分析の中で、高のコーディング・ルールを適用し、コリアン(35) 中国人(36)において、同様に「現代的レイシズム」と「古典レイシズム」を発見した。つまり、曹は高の作ったコーディング・ルールを追検証したわけだが、これは非常に重要なことである。追検証されることで妥当性が増し、一種の尺度として機能する。

「武蔵野市住民投票条例」は、2021年武蔵野市市住民投票条例の審議に際して、それが投票資格に外国人を含むものだったため、「#武蔵野市住民投票条例に反対します」という人種・民族差別的ハッシュタグが作成された。その内容を発表者が分析したものである。さらに、2023年の入管法を巡る当王である。これらの先行研究を抜粋、または、独自データを分析し、一覧表を作った。(表7)。

前述の通り、これらのコードを、「越境と悪魔化」に分類した。ある境界線を越境すると、単なる劣った存在から、マジョリティーを脅かすマイノリティーであるとみなされるようになる。「コリアン」や「中国人」分析においては、特権、生活保護、参政権や年金が、越境してはいけない線引きであり、それを越えたと見なされている。犯罪、事件、凶悪、犯罪は、見下しというよりも、悪魔化といえるだろう。「武蔵野市住民投票条例」や「入管法」においても同じである。

高谷幸(37)によれば、1990年に入管法が改定され、不法就労助長罪が導入されことによって、単なる入管法違反でしかないのに、刑事犯であるかのような印象を非正規就労者に与えることになった。これに伴って、世論も警察の対応も変わっていったマジョリティーの都合によって、今までと同じように働いて暮らしていた人々が、突然犯罪者化されたのである。

2023年6月の国会では、2つの排外主義が進行していた。一つは入管法改正、もう一つはLGBT理解増進法である。2つの排外主義、2つの越境と悪魔化であった。

表 5 差別の語彙セット・憎悪の語彙セット一覧表及びその内訳

		越境(現代的レイシズム)	悪魔化 (古典レイシズム)
コリアン	(高2014、曹2017)	特権 生活保護 受給 人権 通り名 通名 参政権 年金	犯罪 事件 逮捕 悪事 凶悪 強姦.レイプ 犯す 犯人 襲う 強盗.整形 劣る 劣等 ヤクザ 火病
中国人	(高2014、曹2017)	特権 生活保護 受給 人権 通り名 通名 参政権 年金	犯罪 事件 逮捕 悪事 凶悪 強姦 レイプ 犯す 襲う 強盗 整形 劣る 劣等 ヤクザ うるさい 火病 (事件を含み通州 柳条湖 南京を含まないもの)
武蔵野市住民投票条例	田村貴紀2022	参政権 投票権 移民 与える 許す 強行 売国 主権	侵略戦争 侵略行為 壊す 破壊 日本破壊 乗っ取る 引き金 反日
入管法	田村貴紀202.	日本人 法律 入国 移民 日本 外国人 難民申請	犯罪 不法 強制送還 不法滞在
トランス女性	田村貴紀2023	女装 風呂 オペ 女性スペース 女性トイレ 性自認 女子トイレ 女性用トイレ 女性専用スペース 女性用スペース 自称 入る 入れる トイレ 女性専用トイレ 女湯 女性風呂 女風呂 女子風呂 女性浴場 女性専用 女性専用車両 女子更衣室 女子スペース 女子競技 生物学 生得的な女性 科学的根拠 身体女性 身体性別 自認 専用	恐怖 加害 被害 暴力 犯罪 性犯罪 被害女性 性被害

	検索語	媒体	越境(現代的レイシズム)	悪魔化(古典的レイシズム)	歴史	外交	政治
高2014	コリアン	Twitter	12.20%	10.75%	11.26%	4.49%	20.67%
高2015	中国人	Twitter	3.18%	5.94%	7.10%	10.83%	10.16%
曹2017	コリアン	Yahoo!News	6.90%	9.90%	8.90%	2.60%	14.80%
曹2017	中国人	Yahoo!News	2.30%	7.10%	8.60%	6.30%	13.00%
武蔵野市住民投票条例	ハッシュタグ	Twitter	16.43%	2.90%			
入管法	入管法	Twitter	31.60%	15.17%			

注:「#武蔵野市住民投票条例に反対します」データは、反対の意志を集約したものであるため、他のデータと性質が

異なる。

使用したコーディング・ルール

使用したコーディング・ルールは下図のよう(図3)、単なる OR 検索である。

<p>凡例： =OR検索</p> <p>*越境コード 女装 風呂 オペ 女性スペース 女性トイレ 性自認 女子トイレ 女性用トイレ 女性専用フ ース 女性用スペース 自称 入る 入れる トイレ 女性専用トイレ 女湯 女性風呂 女風呂 子風呂 女性浴場 女性専用 女性専用車両 女子更衣室 女子スペース 女子競技 生物学 生 的的女性 科学的根拠 身体女性 身体性別 自認 専用</p> <p>*悪魔化コード 恐怖 加害 被害 暴力 犯罪 性犯罪 被害女性 性被害</p> <p>*トランス排除コード (越境コードと悪魔化コードを合算) 女装 風呂 オペ 女性スペース 女性トイレ 性自認 女子トイレ 女性用トイレ 女性専用フ ース 女性用スペース 自称 入る 入れる トイレ 女性専用トイレ 女湯 女性風呂 女風呂 子風呂 女性浴場 女性専用 女性専用車両 女子更衣室 女子スペース 女子競技 生物学 生 的的女性 科学的根拠 身体女性 身体性別 自認 専用 恐怖 加害 被害 暴力 犯罪 性犯罪 害女性 性被害</p>
--

図 4 使用したコーディング・ルール

コーディングの結果

コーディング・ルールによる分析の結果、各コードの出現率は下図(図 4)のようである。全体の指標としてトランス排除コードを見ると、2018 年 11 月までのデータでは 30%程度だったが、2018 年 12 月に 49.77%まで跳ね上がり、2020 年前半一旦下降したものの、2020 年後半から上昇を再開し、2021 年後半には、2 度目のピークを迎えた。LGBT 理解増進法が議論されたが国会提出されなかった年で、「女性スペースを守る会」が誕生した年である。その後一旦下がったものの、LGBT 理解増進法が審議・成立した、2023 前半にかけて上昇し、51.96%と過去最高となった。2度の LGBT 理解増進法審議の機会が、Twitter 世論と共変している。同時に、表 6 に先行研究の研究の結果を示した通り、高、曹の示す比率が最大でも10%であり、「#武蔵野市住民投票条例に反対します」ハッシュタグのデータは、排外主義の意見の集約であるにも関わらず同様であることと比較すると、議題の収斂性が非常に高い。入管法のデータもかなり高いが、これは、それをしのいでいる。

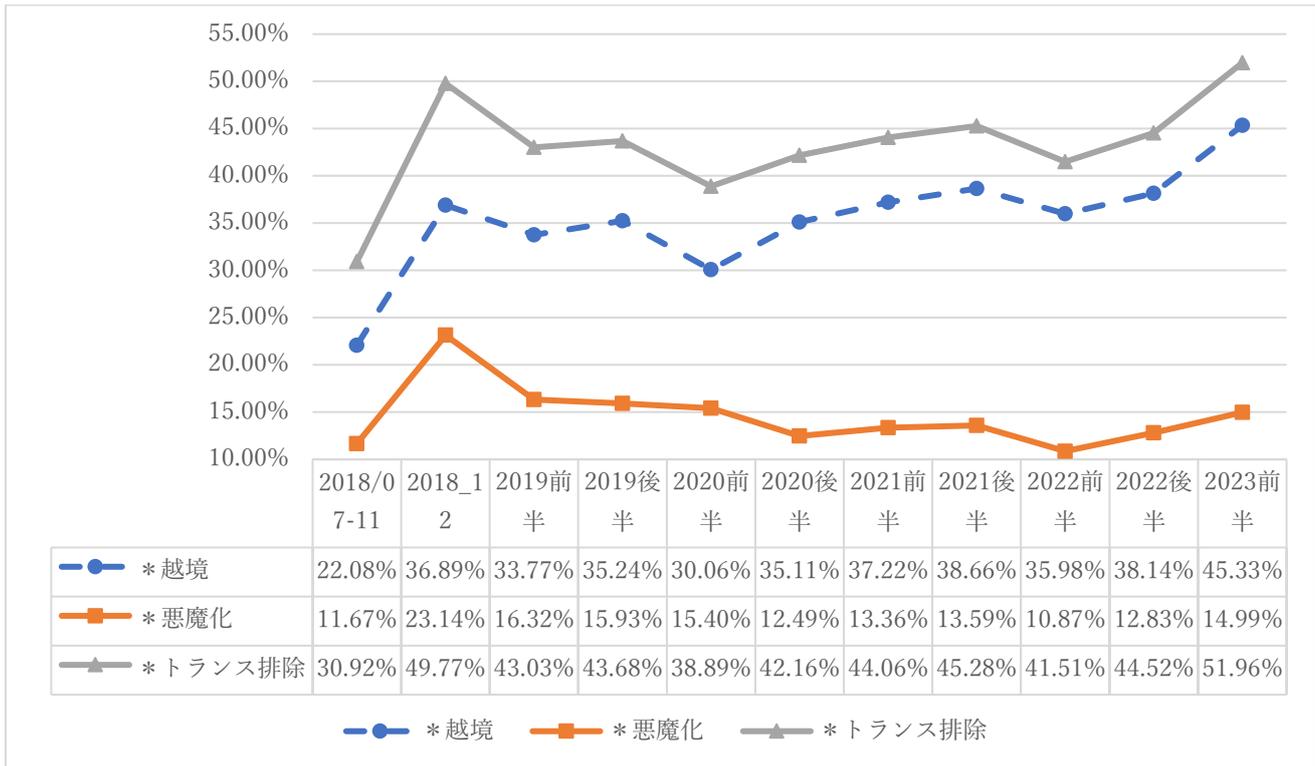


図 5 各コードの期間ごと出現率

先述した、「定義」および WAN 掲載のエッセイなどで議論となった「terf」については、下記の通り。

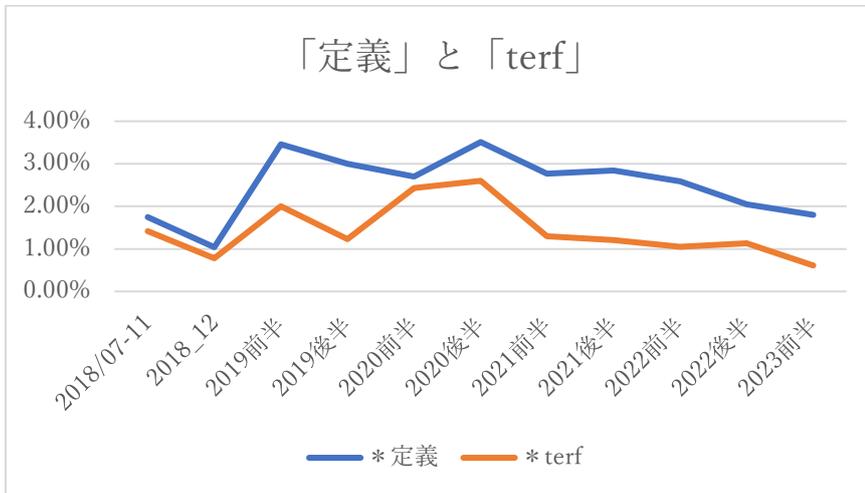


図 6「定義」と「terf」

新規アカウントと既存アカウントのトランス排除コードの出現率比較

前述の通り、伝播とは同じアカウントが物語を反復するだけではなく、新規参入アカウントが物語を継承することを意味する。そこで、各期間に新しく誕生した Twitter アカウントのツイート内容を分析し、既存アカウントとの比較をした。コーディング・ルールは、全体分析と同一である。新旧アカウントファイルごとのツイッター投稿数は表 7 に記載した。

図 5 のように新規アカウントにもトランス排除コードが発見され、その割合は、しばしば、既存アカウントよりも多い。伝播が起きているのである。

表 7 新旧アカウントファイルごとのツイッター投稿数

	2020前半	2020後半	2021前半	2021後半	2022前半	2022後半	2023前半
新規アカウント	713	855	1,394	2,193	917	1,775	2,027
既存アカウント	10,672	19,339	23,738	27,872	28,435	35,273	47,043

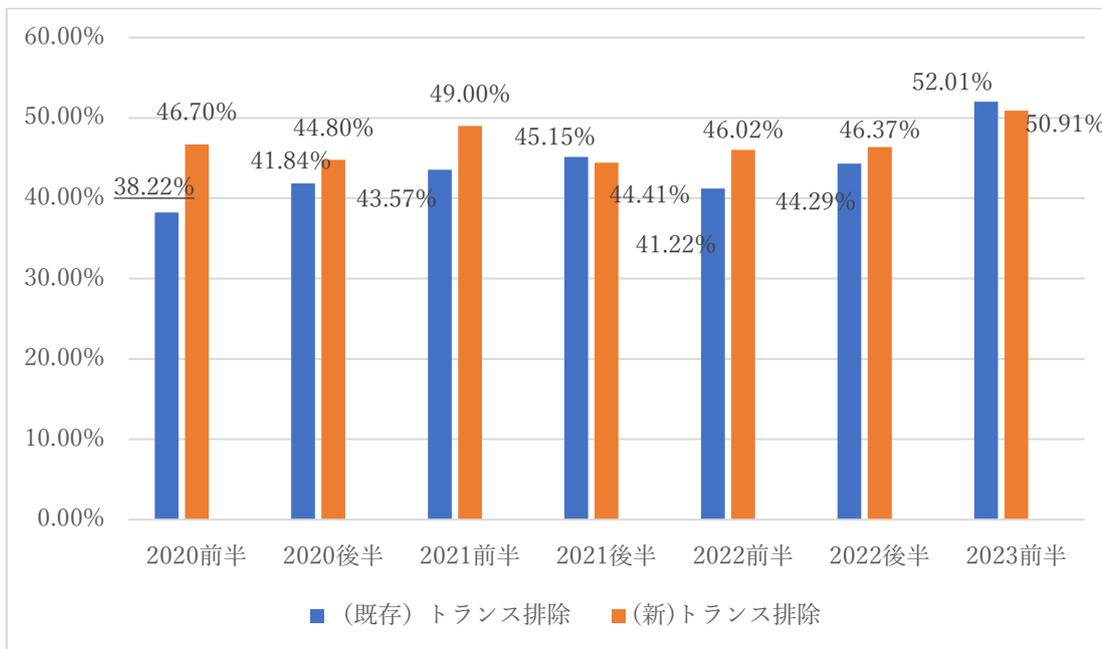


図 7 新規アカウントと既存アカウントのトランス排除コードの出現率比較

ケーススタディー

前述のように収集したデータをコーディング分析した。コーディング・ルールは、全体分析と同一である。全体を概観すると、全体分析同様すべてのアカウントにおいて、2021 年と、2023 年に数値の上昇が見られる。

case01(図 8)はその典型的なパターンである。2021 年に数値が上昇した後、しばらくは下がった状態が続き、2023 年に再燃した。

case02(図 9)は 2019 年から乱高下しながら全体において右肩上がりのグラフである。

case03(図 10)は、早い時期からの参加者であり、2019 年に一度山があった。しかし 2023 年に至るまで比較的上下動が穏やかである。

case04 (図 11)は、典型的な伝播の物語のグラフである。2021 年に突然大きく数値が上がり、そのまま上昇を続けている。継承した憎悪の物語を変形生成しながら、エバンジェリストとして増幅させている。

case05(図 12)はなだらかな右肩上がりのグラフで、2023 年にピークに達する。

この様々な波形のグラフに表れているように、トランス排除の憎悪の物語は特定のアカウントによって 5 年にわたって継続的に語り続けられて来たのではなかった。アカウントによっては、ある時期活動が活発になったり、別のアカウントはその時期停滞したりしながら、入れ代わり立ち代わりながら、2019 年から 2022 年まで、全体としては全体分析にあるような、ほぼ一定の比率で推移したものとみられる。

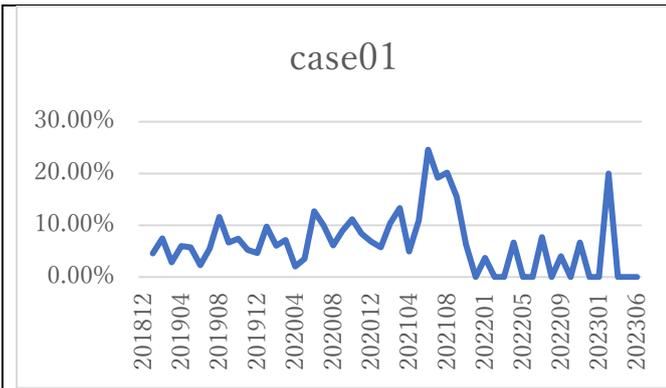


図 8 case01

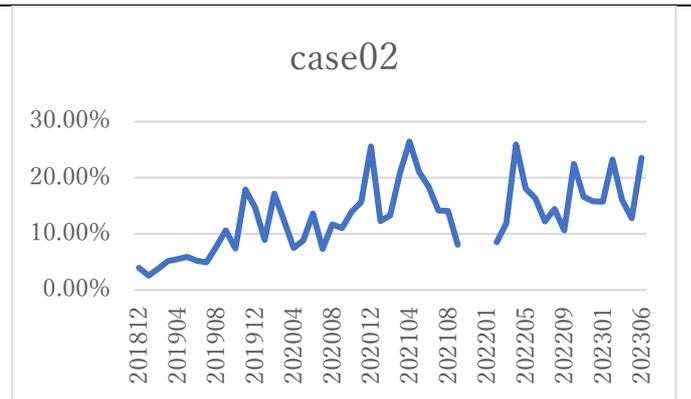


図 9 case02

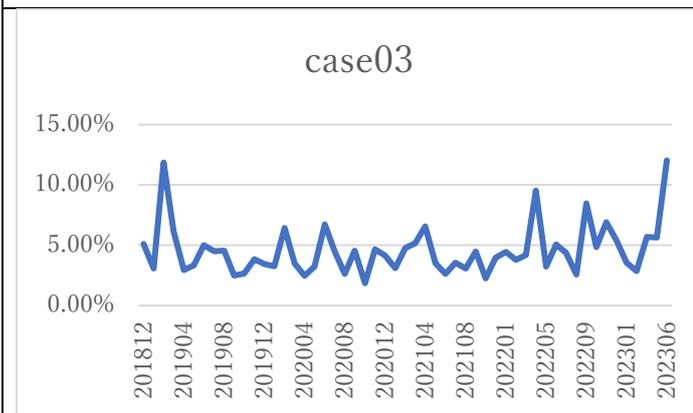


図 10 case03

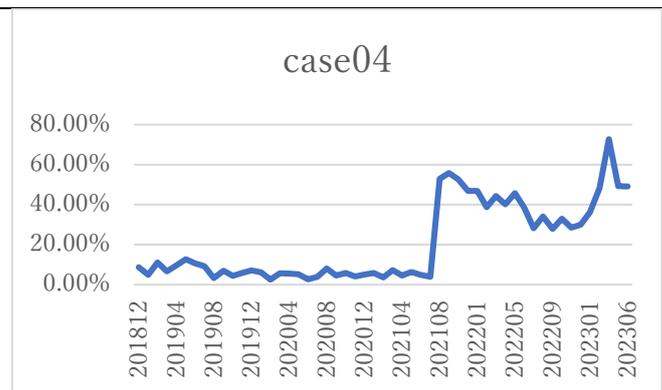


図 11 case 04

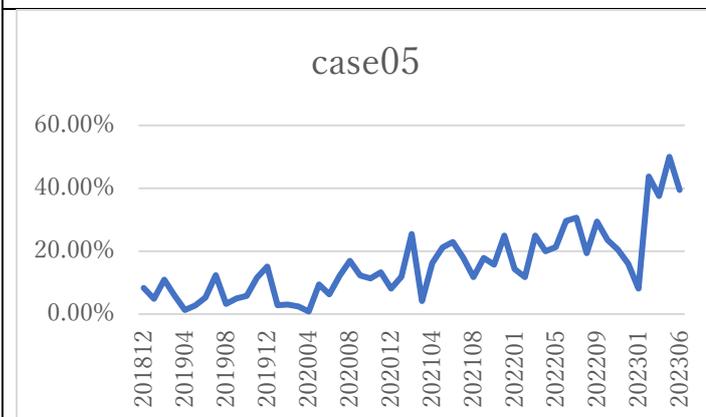


図 12 case05

5. 結論 対抗言論はいかにして可能か？

これまでの分析によって、本発表の仮説は支持された。しかし、それがどんな意味を持つのが問題である。

一般的に、差別を止めるために必要なのは、包括的差別禁止法、国内人権機関、そして反差別教育と対抗言論である。今日の日本社会では、その全てが不可能なようにも思える。冒頭で、発表者自身対抗言論の可能性について否定的であったが、対抗言論なくしては、どれ1つとして一緒に就くことができない。

在特会のヘイトスピーチが隆盛を極めた 2010 年代も、言論の自由であるデモを止めることができないし、規制する法

律はないし、言論の自由市場では物事は力によって決まるし、在特会はまるで異形の怪物のように見えた。

その時に安田浩一『ネットと愛国』(38)が出た。その後樋口直人(39)を始めとして、発展的に批判されてもいるが、「インテリはみんな読んで」と言われるほどのインパクトがあった。私がおその本を読んだときの印象は、「なんだ、こんなことだったのか」ということであつた。異形の怪物の顔がわかつた。

つまり、物語定型を定式化し、相対化することである。それがその後の対抗言論の礎となつた。

この発表は、それを試みた。

謝辞

Sato Datio さん(University College London, the Department of Physics and Astronomy)に研究協力を得た。明戸隆浩さん(大阪公立大学大学院 経済学研究科 准教授)から論文資料の提供を受けた。大学生の Chinatsu Naraoka さん(University of Sussex, BA International Relations and Development)から、論文資料の提供を受けた。

文献

- (1) 藤高和輝, Fujitaka Kazuki. ポストフェミニズムとしてのトランス? ——千田有紀「女」の境界線を引きなおす」を読み解く. お茶の水女子大学ジェンダー研究所, 2021. <https://teapot.lib.ocha.ac.jp/records/2000120>, (参照 2022-08-13).
- (2) “LGBT法への不安に伝える 自民「女性を守る」議連設立 - 産経ニュース”. <https://www.sankei.com/article/20230621-QQ5V2LYDUNNK5ONMIYGTE7XVFAQ/>, (参照 2023-07-16).
- (3) 浅野 智彦. 自己への物語論的接近—家族療法から社会学へ. 勁草書房, 2001, ISBN4-326-65254-3.
- (4) Polkinghorne, Donald E. Narrative Knowing and the Human Sciences. New York, State Univ of New York Pr, 1988, ISBN0-88706-623-2.
- (5) ブルーナージェローム・S. 可能世界の心理. 田中一彦翻訳者. みすず書房, 1998, ISBN978-4-622-03084-3.
- (6) Davis, Joseph E. Stories of Change: Narrative and Social Movements. Albany, N.Y., State University of New York Press, 2002, 294p., ISBN0-7914-5192-5.
- (7) フランクアーサー. 傷ついた物語の語り手: 身体・病い・倫理. 鈴木智之翻訳者. 東京, ゆみる出版, 2002, 326p., ISBN4-946509-29-1.
- (8) Papacharissi, Zizi. Affective Publics: Sentiment, Technology, and Politics. Oxford ; New York, NY, Oxford Univ Pr, 2015, 160p., ISBN978-0-19-999974-3.
- (9) 吉田 純. インターネット空間の社会学—情報ネットワーク社会と公共圏. 世界思想社, 2000, ISBN4-7907-0825-X. <http://www.hisja.info/hisarc/yoshida2000Enc.pdf>.
- (10) 干川 剛史. 公共圏の社会学—デジタル・ネットワークキングによる公共圏構築へ向けて. 法律文化社, 2001, ISBN4-589-02493-4.
- (11) 梅津頭一郎. 「情報公共圏論」研究序説: 接近可能性の概念を手がかりに. 社会情報学研究. 2023, vol. 9, p. 1-13.
- (12) Baym, Nancy. “The Emergence of On-line Community”. CyberSociety: Computer-Mediated Communication and Community. Jones, Steve 編. Thousand Oaks, Calif, Sage Publications, Inc, 1994, ISBN0-8039-5676-2.

- (13) 土橋祐介, 河島茂生. 書き込み機能のアーキテクチャ変更にもなうユーザ行動の比較 ウェブ絵本サイト「ストーリーキューブ」における調査研究. 情報メディア研究. 2005, vol. 4, no. 1, p. 77-93.
- (14) 北田暁大. “ディスクルス(倫理)の構造転換”. 情報社会の倫理と設計 倫理篇. 東浩紀, 濱野 智史 編. 河出書房新社, 2010.
- (15) 西垣 通, 竹之内 禎. 情報倫理の思想. NTT 出版, 2007, ISBN4-7571-0215-1.
- (16) オースティン, J. L. . 言語と行為 いかにして言葉でものごとを行うか. 講談社(Amazon KIndle), 2019.
- (17) Flick, Uwe. An introduction to qualitative research. 4th ed, Los Angeles, Sage Publications, 2009, 504p., ISBN978-1-84787-323-1.
- (18) 三橋順子. “なぜ 2019 年の日本で、トランスジェンダー女性たちが攻撃されているのか”. 文春オンライン. <https://bunshun.jp/articles/-/11620>, (参照 2020-05-27).
- (19) 三橋順子. 日本のフェミニズムが問われるもの—トランスフォビアの克服とトランス女性との連帯. 女たちの 21 世紀 = Women’s Asia 21. 2019, no. 98, p. 17-21.
- (20) 堀あきこ. 近年のインターネットを中心とした「トランス女性排除」の動向と問題点. 解放社会学研究 = The liberation of humankind : a sociological review : official journal of the Japanese Association of Sociology for Human Liberation / 日本解放社会学会 編. 2023, no. 36, p. 120-141.
- (21) 堀あきこ. 分断された性差別—「フェミニスト」によるトランス排除. 女たちの 21 世紀 = Women’s Asia 21. 2019, no. 98, p. 6-10.
- (22) 日本放送協会. “トランスジェンダー当事者の弁護士 殺害予告など送りつけられる | NHK”. NHK ニュース. <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230605/k10014090251000.html>, (参照 2023-08-14).
- (23) 秋庭 裕, 川端亮. 霊能のリアリティへ: 社会学、真如苑に入る. 新曜社, 2004. <http://ci.nii.ac.jp/ncid/BA67723926>, (参照 2013-08-18).
- (24) リクール, ポール. 時間と物語〈1〉物語と時間性の循環/歴史と物語. 新装版, 新曜社, 2004, ISBN978-4-7885-0914-6.
- (25) 小林多寿子. “インタビューからライフヒストリーへ”. ライフヒストリーの社会学. 弘文堂, 1995, p. 43-70.
- (26) 岡和田晃, マーク・ウィンチェスター. アイヌ民族否定論に抗する. 河出書房新社, 2015, 334p., ISBN978-4-309-22620-0.
- (27) 高井ゆと里. トランスジェンダーの定義を知りたいあなたへ. 2023.
- (28) 木野泰伸. 概念化プロセスにおける質的研究手法とテキスト分析手法の比較. 横幹連合コンファレンス予稿集. 2020, vol. 2020, no. 0, p. B.
- (29) 高史明. 日本語 Twitter ユーザーのコリアンについての言説の計量的分析. 人文研究 = Studies in humanities / 神奈川大学人文学会 編. 2014, no. 183, p. 131-153.
- (30) 高史明, 雨宮有里. 在日コリアンに対する古典的/現代的レイシズムについての基礎的検討. 社会心理学研究. 2013, vol. 28, no. 2, p. 67-76.
- (31) 高史明. 在日コリアンに対する古典的/現代的レイシズム尺度の確認的因子分析と基礎的な検討. 人文研究 = Studies in humanities / 神奈川大学人文学会 編. 2013, no. 180, p. 69-86.
- (32) NHK. “外国人の義務だった『指紋押なつ』私はなぜ拒否したのか | 戦争 | NHK アーカイブス”. 外国人の義務だった“指紋押なつ” 私はなぜ拒否したのか | 戦争 | NHK アーカイブス. https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0001810416_00000, (参照 2023-08-29).

- (33) 民族差別と闘う関東交流集会実行委員会. 指紋押捺拒否者への「脅迫状」を読む. 明石書店, 1985, 120p.
- (34) Morrison, Todd G., Kiss, Mark. "Modern Racism Scale". Encyclopedia of Personality and Individual Differences. Zeigler-Hill, Virgil, Shackelford, Todd K.編. Cham, Springer International Publishing, 2017, p. 1-3, ISBN978-3-319-28099-8. https://doi.org/10.1007/978-3-319-28099-8_1251-1, (参照 2023-08-29).
- (35) 曹慶鎬. インターネット上におけるコリアンに対するレイシズムと対策の効果: "Yahoo!ニュースのコメントデータの計量テキスト分析. 応用社会学研究 = The journal of applied sociology: 立教大学社会学部研究紀要 / 立教大学社会学部 編. 2017, no. 59, p. 113-127.
- (36) 曹慶鎬. "Yahoo!ニュース"の計量テキスト分析: 中国人に関するコメントを中心に. 駒澤社会学研究 = Komazawa journal of sociology. 2017, no. 49, p. 115-135.
- (37) 高谷幸. 追放と抵抗のポリティクス: 戦後日本の境界と非正規移民. ナカニシヤ出版, 2017, 264p., ISBN978-4-7795-1155-4.
- (38) 安田浩一. ネットと愛国. 講談社, 2015, ISBN978-4-06-281632-8.
- (39) 樋口直人. 日本型排外主義: 在特会・外国人参政権・東アジア地政学. 名古屋大学出版会, 2014, 298p., ISBN978-4-8158-0763-4.